

# 第1小委員会(組織・財政)

第1小委員長には、尾崎委員(福知山地本)が選出された。冒頭、里内副委員長が、挨拶の中で西日本豪雨について触れ、こんな状況だからこそ定期大会を開催し、被災した自分たちのエリアや組合員に思いを馳せ、「我々はこの大会で何を考え、何を述べて、何を決めるか」と問題を提起した。委員会では、安全、組織、契約社員、女性活躍推進法等について、33名の代議員から発言があった。



第1小委員会(組織・財政)尾崎小委員会議長(福知山地本)

平委員  
神戸地本・關委員 林委員  
本多委員 渡邊委員

福知山地本・上井委員 乳原委員  
岡山地本・勝浦委員 森下委員  
米子地本・中嶋委員 松原委員  
広島地本・宮川委員 松村委員  
福岡地本・二宮委員  
西バス地本・阿部委員  
中バス地本・加川委員  
本社総支部・原田委員 泉谷委員 橋口委員

## 発言要旨

●2018年度に福知山支社に配属となった20名と契約社員についてはしっかりとフォローしていく。  
●JR東労組の脱退騒動を私たちは反面教師と捉え、JR西労組運動の大切さを先輩から後輩へ受け継いでいきたい。  
また、教育の一環としてJR総連、革マルがどのようなことを行っていたのか、映像等でまとめた教育資料の作成を検討してもらいたい。

## 中央本部出席者

里内副委員長、白壁組織・男女平等参画推進部長、川原政治・福祉対策・文化レク部長、宮野政策・調査・情宣・国際部長、岩森組織業務部長、森川組織業務部長、新倉青年女性委員長、吉川・木下・鷲尾・河口会計監査員

## 発言者氏名

金沢地本・酒井委員 藤川委員  
京都地本・谷委員  
大阪地本・宮崎委員 内田委員 内山委員 駒田委員 大田委員 高橋委員 村瀬委員 細田委員 平山委員 田中委員  
和歌山地本・尾西委員 中

●総合職は異動が多く、各々地本での活躍にはながらないかもしれないが、今後会社の経営を担う人物に、組合を理解してもらうことは、会社とJR西労組の発展に重要な意味がある。参加参画促進に取り組んでいく。  
●新人社員の組合加入時に合わせて、各種共済加入について取り組んでいるが、JR西労組が勧める共済にも配慮するように、会社との議論をお願いしたい。

●JR西労組の取り組みにより、育児に関する様々な制度の新設・改善が行われてきたが、社員の理解不足により、制度が活かされていない。研修を提案したい。  
●要員需給が厳しい職場では、利用に気を遣う組合員がいます。  
●JR東日本と密接に関わる糸魚川地区支部では、ジェイアールイーストユニオンの国井事務局長を招き、JR東労組問題について講義をいただいた。改めて組合所属の意味を考えると7月の参院選に奈良支部では、組織内議員田尻議員の必勝に向け取り組む。

●国際連帯活動は隔年開催にしてはどうか。  
●神戸地本組織内議員の栗山雅史兵庫県議会議員の選挙へ向け、地本、支部、青年一体となって取り組む。  
●昨年国労への脱退があったが、相手の弱体化に期待するのではなく、自組織の強化・教育に取り組む。  
●JR連合では、比例は、地方連合会が決定した党に投票することを決定した。  
●JR西労組中央本部は、地方連合会が推薦決定した候補者の政党を比例で投票するよう、組合員に徹底することを強く要請する。

●「救援基金」なる積立基金を設けて、自然災害が発生した際は資金面で迅速な援助ができないだろうか。  
●JR各社で第三者加害防止に向けた行動を実施してはどうか。  
●目の不自由なお客様の接客事故を受けて、駅ホームの見守り体制を強化された。  
●企画・提案時には、ダイバーシティの土台づくりも考慮するべき。  
●女性設備に関する課題が多く残っているにも関わらず、予算等の制約により前進していない印象である。設備充実により、女性の活躍につながることを考える。  
●妊娠中の検査については無給休暇となっているため、幅広く制度を整えるように検討を。

●JR西労組と他労組の違いについて学ぶ機会を設け、組織強化を図ってほしい。  
●JR東労組の脱退者は3万3千人と多かったが、JR連合を中心として何を訴えるのか? ●本社総支部は、会社からのみなさん方の思いを受け入れた活動をしている。大会日数を減らすのではなく、組合員のみなさんの意見を一つでも多く伝える。そういう機会をつくること、労働組合の基本的活動であると考え。

●以前はJNR世代からJR世代への継承が課題となっていたが、現在ではJR世代間での継承も困難となっている。  
●グループ作業が多い工務系職場では、育児などをしながら働く事例が少なく、不安を抱えている。今後も女性ネットワーク委員会といた、同じ悩みを抱える組合員との意見交換ができる場を設けてほしい。  
●網干総合車両所は広範囲に存在し、派出異動後に西工機に向いた場合、所属地本が京都や大阪地本となり、様々な手続きや行事に支障をきたしている。柔軟に所属分会を変えることができる仕組みづくりをお願いしたい。  
●網干総合車両所では、異動の関係でJR西労組から脱退者が発生した。「納得できない異動が多い」と、現場社員からの声も多い。不満で社員のモチベーションは下がる一方である。組織拡大、年齢の引き上げなどの議論もあるが、次世代を担う組織としてのよう考えられているのか。他の地本、支部の状況がわかれば共有をお願いしたい。  
●10月23日・24日に、広島地本管内で行われる予定のソフトボール大会について、金沢で行われる連盟の野球大会と日程が重複している。日程変更の検討をお願いする。  
●適齢期を迎えた女性乗務員のステップアップについて、試験合格から研修センターまでの期限延長や妊娠・出産等への長期間への特別措置を要望する。  
●中期経営計画達成配分について、シニア・シニアリーダー社員に、成果配分を。  
●女性活躍という言葉が先行しすぎると、女性ばかりが優遇されると感じられ、ハレィションが生まれる。多様な人材から様々な意見を取り入れていくので、本部の協力を。  
●西日本豪雨のキャンパは心強い。  
●ユニオンカレンダーがナイザー(4月上旬)の日程変更。  
●がんになっても働き続けられる職場づくりを。

## 本部答弁(第1小委員会)

### 宮野政策調査・情宣部長

●革マル教材は、今ある教材、組織ニュースの活用を。  
●吉備線のLRTがやまと軌道に乗り、感謝。来年5月には岡山でシンポジウム開催。  
●国際連帯は経費を抑えながら今後も開催したい。

●第三者加害は、JR連合、産別と連携して、対応。  
●青女は、楽しく活動してもらおうのが第一。何をやりたいのか、皆さんで見出してほしい。

●JR西労組「ライン始めました」是非、お友達に。  
●川原政治福祉対策部長

●「何を考慮して契約社員に応募しましたか」正社員への登用を希望するという回答が、8割以上。不安をフォローしていく。

●共済の未移行者3000名に対し300名の移行者。来年は退職者の色分け。  
●他業種の社会見学、安全衛生コースの中で検討。  
●会社と組合で競合しながら

ら生命保険は棲み分け。  
●田尻さんの当選に向けて頑張っていたください。  
●「交通政策をすすめる会」の会報の充実を。  
●まずは、地元を根を下ろした議員を推す。  
●ボランティアは現地のヒトとモノの要求に添える。  
●連盟競技について、一度外すことを検討中。  
●まずは、無所属でも地盤で勝てる議員をつくらなければ。  
●救援基金は、定額積み立

てではなく、都度集めるのが目的が明確。今後の課題として考えていきたい。  
●今回のソフトボールは、広島での開催ということ、会場の変更は難しい。  
●オルガナイザー研修は、短縮も含めた日程変更を検討する。

●JR西労組運動を作り上げてきた。一人でも多くの委員の発言を受ける機会を増やすため、小委員会方式にしていく。どうしても二泊三日は必要である。JR西労組というのは、組合員

●新倉青年女性委員長  
●青女が中心となり新入社員の加入行動をしていただき、691名全員に加入いただいた。感謝を申し上げ

●加入オルグの際にいろいろ説明しなければならず、それが勉強になっている。  
●政治について、勉強会をすべきという意見がある。

●政治について、勉強会をすべきという意見がある。●青年女性委員会について

●舞鶴レングス倉庫や、神戸のぞみ停車といった、地方での取り組みもある。そういった問題について、地本と相談しながら、地方議員の方の力を借りながら、政治に関心を持つ取り組みを作り上げることができればと考えている。

